

学校编码: 10384

分类号 _____ 密级 _____

学号: 12220121152540

UDC _____

厦 门 大 学

硕 士 学 位 论 文

试论樋口一叶的孤儿拯救小说 ——以《琴之音》、《暗夜》为例

樋口一葉の孤児救済物語に関する一考察
——「琴の音」、「やみ夜」を中心に

杨佳嘉

指导教师姓名: 马英萍 副教授

专业名称: 日语语言文学

论文提交日期: 2015 年 4 月

论文答辩日期: 2015 年 5 月

学位授予日期: 2015 年 6 月

答辩委员会主席: _____

评 阅 人: _____

2015 年 月

试论樋口一叶的孤儿拯救小说——以《琴之音》、《暗夜》为例

杨佳嘉

指导教师 马英萍
副教授

厦门大学

厦门大学学位论文原创性声明

本人呈交的学位论文是本人在导师指导下,独立完成的研究成果。本人在论文写作中参考其他个人或集体已经发表的研究成果,均在文中以适当方式明确标明,并符合法律规范和《厦门大学研究生学术活动规范(试行)》。

另外,该学位论文为()课题(组)的研究成果,获得()课题(组)经费或实验室的资助,在()实验室完成。(请在以上括号内填写课题或课题组负责人或实验室名称,未有此项声明内容的,可以不作特别声明。)

声明人(签名):

年 月 日

厦门大学学位论文著作权使用声明

本人同意厦门大学根据《中华人民共和国学位条例暂行实施办法》等规定保留和使用此学位论文，并向主管部门或其指定机构送交学位论文（包括纸质版和电子版），允许学位论文进入厦门大学图书馆及其数据库被查阅、借阅。本人同意厦门大学将学位论文加入全国博士、硕士学位论文共建单位数据库进行检索，将学位论文的标题和摘要汇编出版，采用影印、缩印或者其它方式合理复制学位论文。

本学位论文属于：

- () 1. 经厦门大学保密委员会审查核定的保密学位论文，于
 年 月 日解密，解密后适用上述授权。
- () 2. 不保密，适用上述授权。

（请在以上相应括号内打“√”或填上相应内容。保密学位论文应是已经厦门大学保密委员会审定过的学位论文，未经厦门大学保密委员会审定的学位论文均为公开学位论文。此声明栏不填写的，默认为公开学位论文，均适用上述授权。）

声明人（签名）：

年 月 日

要 旨

明治 26 (1893) 年 7 月の下谷龍泉寺への転居をきっかけに、樋口一葉の小説は従来の恋愛小説から社会小説へと作風が大きく変化する。この時期から「奇跡の十四ヶ月」が始まるまで、一葉は 3 篇の小説しか発表しなかったが、その中の 2 篇は「孤児救済」という主題を持つ作品である。「琴の音」(明治 26) の渡辺金吾と「やみ夜」(明治 27) の高木直次郎は幼年時代から孤児であり少年時代を通じて周囲から差別され、疎外されてきた。大人になっても、心が拗けたまま常に他人や社会に不満と怒りをぶつけながら、落ちぶれた生活を送っている。作中で、これらの孤児主人公たちは他人の援助を受けることもあるが、結局はおのれの人生の苦境、生き難さからは脱出することはできない。

本稿は上に述べた一葉文学の変化に触れながら、作中の孤児と孤児を救う救済者に焦点を絞り、「琴の音」、「やみ夜」のテキストを分析することによって、それぞれの物語に込められた社会批判を究明しようと思う。

第一章では、一葉文学についての先行研究を紹介し、本研究の視点、研究目的と意義、研究方法を論述する。

第二章では、転換期の一葉文学について紹介する。具体的には、明治 26 (1893) 年 7 月の下谷龍泉寺への転居から「奇跡の十四ヶ月」が始まるまでの一葉の生活、創作状況及び文学変容の特徴を述べる。

第三章では、「琴の音」のテキストを分析する。まず、金吾という人物像の分析によって、貧困による家庭の解体、養育を放棄される子供の増加など、当時の社会問題について検討する。さらに、明治時代の公的な救済制度と私的な救済事業の歴史的な資料を踏まえ、金吾のような孤児が救済されなかった原因を探ってみる。また、金吾の救済者である森江しづの人物像を分析し、明治政府が唱えた「良妻賢母」に対する、一葉のアンチテーゼを窺う。さらに、金吾としづを繋ぐ「琴の音」を分析し、「琴の音」の古典性、音楽救済の空想性を明確にしたうえで、現実には救済など施されておらず、みすみす子供を乞食にらせるだけの同時代の社会に対する一葉の批評の声を解明する。

第四章では「やみ夜」のテキストを分析する。まず、松川屋敷という異質的な空間の特徴を明らかにし、その周辺の環境との比較によって、松川屋敷の閉鎖性、前近代性を論じる。さらに、直次郎の立身出世の失敗をめぐって、農村部落出身の身分がもたらした差別こそ、彼が立身出世に失敗するに至った根源的な原因だと論じ、さらに明治時代の立身出世の不平等を検討していく。また、「女菩薩」と「女夜叉」という松川蘭の両面性を分析し、女菩薩の幻影が暗示するものと女夜叉という表現の意味を究明する。最後に、直次郎の暗殺失敗、松川一家の行方不明という結末を分析することによって、明治時代の官職者と庶民の間に存在した大きな階級の格差を論じて、孤児であるがゆえの現実の生き難さを明示する。

第五章では、結論として、以下のようにまとめた。まず、この二篇の小説の分析を通して、明治 20 年代に現れてきた孤児問題、社会における地位と貧富の格差が広がるなか、現実の生き難さに抗う孤児たちの実像をまとめていく。さらに、小説の中の孤児たちには一応救いの手が差し伸べられるが、結局惨めな苦境から抜け出せないことを指摘する。このような孤児の表象と彼らの境遇を通して、前近代と近代の共存対立する明治国家像、明治 20 年代の歴史の真実をより深く理解することができるだろう。また、琴の音による更生、女菩薩が夢枕に立つという救済手段の古典性、空想性を論じることで、東西文化が衝突しあい、近代化へ向けて一直線に前進する明治 20 年代に、これらの幻想的な救済法は、現実の孤児問題をうまく解決できない社会に対する一葉の批判であると結論づける。なお、貧民救済、部落差別問題への関心という点について、それが一葉の社会主義的な思想であると認識し、同じ問題を意識した同時代の泉鏡花や島崎藤村に先行することを強調し、この問題に関する一葉の先駆性を論じる。

キーワード：樋口一葉 孤児 救済 文明批判

摘要

从明治 26（1893）年 7 月迁居下谷龙泉寺之后，樋口一叶的作品从原来的恋爱小说开始向社会小说转变。从这一时期到“奇迹的十四个月”开始为止，在樋口一叶仅发表的 3 篇小说中，有 2 篇就是以拯救孤儿为主题的小说。如《琴之音》中的渡边金吾、《暗夜》中的高木直次郎，这两位主人公在年幼时代沦为孤儿，在少年时代却又被社会歧视并异化。他们性情怪癖、对社会不满，过着穷困潦倒的生活。在作品中，这两位主人公都曾受到过救助，但是，最终却依旧无法摆脱悲惨的命运。

本文首先从这一时期樋口一叶文学的变化入手，通过文本分析的方法对作品《琴之音》和《暗夜》进行解读，围绕作品中的孤儿和拯救者以及拯救手段展开讨论，进而深究故事情节背后所蕴含的社会批判。

第一章中首先对樋口一叶文学做简要的文献综述介绍。其次，对本文的研究视角、研究目的和意义、研究方法进行阐述。

第二章主要对樋口一叶转换期的文学进行介绍。围绕明治 26（1893）年 7 月搬迁至下谷龙泉寺到“奇迹的十四个月”开始的这段时间内，一叶的生活和创作情况以及一叶文学的变化展开探讨。

第三章则对《琴之音》进行文本分析。首先通过分析孤儿金吾的形象，对当时社会中因贫困导致家庭破裂以及孤儿人数增加的社会问题进行探讨。其次，在考察相关历史资料的基础上，通过分析明治时代政府的救助制度和民间的救助活动的情况来探究金吾未被拯救的原因。随后，对拯救者森江静的身份进行再探讨，进而论述一叶对日本政府所提倡的贤妻良母口号所持的反叛态度。最后，通过分析“琴之音”的古典性和从音乐中寻求拯救的空想性，来探讨暗含在作品中的社会批判。

第四章中主要对《暗夜》进行文本分析。首先对松川宅这一空间进行论述，在比较松川宅与其周边环境之后，表明松川宅的封闭性和落后性。其次，对直次郎无法在社会立足的原因进行分析，表明其根本原因是由于他的部落民身份，进而探讨明治时代的青年为了在社会立足而努力奋斗过程中所遭遇的不平等待遇

的社会现状。此外，通过对松川兰的女菩萨形象和女夜叉形象进行分析，探究女菩萨幻影所暗示的悲剧以及女夜叉形象的意义。最后，对直次郎暗杀失败，松川一家行踪不明的结局进行解读，揭示明治时代巨大的阶级差异下孤儿难以生存的社会现实。

第五章，作为本文的结论，做如下阐述。首先，通过以上两篇小说的分析，对明治 20 年代出现的孤儿问题、巨大的社会地位和贫富差异中孤儿难以生存的社会现象有一个明确的认识。这也从一个侧面反映了日本在努力迈向近代化的过程中所呈现出的东西文化相互冲突、封建与近代共存的明治国家像。其次，在对琴之音、女菩萨的古典性和幻想性进行论述之后，可以发现，这些幻想性的救助方式其实是对现实生活中孤儿未被救助的这一社会现状的讽刺，由此可见樋口一叶对明治政府的批判。此外，对贫民救济、部落歧视等问题的关心显示了樋口一叶在思想上的社会主义倾向，她所蒙生的这种问题意识，比同时代的泉镜花和岛崎藤村都要早一步，这也体现了一叶在这一方面的先驱性。

关键字：樋口一叶 孤儿 拯救 文明批判

目次

第一章 序論	1
1.1 先行研究	1
1.2 本研究の視点	2
1.3 本研究の目的と意義	3
第二章 転換期の一葉文学	5
2.1 創作と生活の危機	5
2.2 「糊口的文学」を放棄する	7
2.3 下谷龍泉寺町時代	9
2.4 本郷丸山福山町へ	11
2.5 一葉文学の変化	14
第三章 「琴の音」論	16
3.1 はじめに	16
3.2 金吾の墮落	18
3.2.1 金吾が墮落するまで	18
3.2.2 墮落の原因	21
3.3 救済されなかった人々	23
3.3.1 明治時代における公的な救済制度について	23
3.3.2 婦人慈善会	24
3.4 救済者としての森江しづという女性	26
3.4.1 森江しづの家という空間	27
3.4.2 森江しづの身分を再考する	28
3.5 琴の音に響く救済の世界	30
3.5.1 古典における琴の音	31
3.5.2 救済の象徴としての琴の音	33
3.6 おわりに	35
第四章 「やみ夜」論	36

4.1	はじめに.....	36
4.2	調和しえない二つの空間.....	38
4.2.1	松川屋敷の内.....	39
4.2.2	松川屋敷の外.....	41
4.2.3	調和しえない二つの空間.....	42
4.3	直次郎の境遇.....	43
4.3.1	郷里から排除された孤児.....	43
4.3.2	都市に疎外された青年.....	44
4.4	社会に差別された人々.....	47
4.4.1	直次郎の故郷—被差別部落.....	48
4.4.2	被差別部落の欲望と抑圧.....	49
4.4.3	直次郎の立身出世が失敗した原因.....	52
4.5	救済者としての松川蘭という女性.....	53
4.5.1	女菩薩の幻影.....	53
4.5.2	女菩薩救済の表象.....	56
4.5.3	女夜叉への変貌.....	58
4.6	おわりに.....	59
第五章	結論.....	61
参考文献	64
謝 辞	68

目 录

第一章 序章	1
1.1 文献综述	1
1.2 本研究的视角	2
1.3 本研究的目的是和意义	3
第二章 转换期的一叶文学	5
2.1 创作和生活的危机	5
2.2 “糊口文学”的放弃	7
2.3 下谷泉寺町时代	9
2.4 本乡丸山福山町	11
2.5 一叶文学的变化	14
第三章 《琴之音》论	16
3.1 引言	16
3.2 金吾的堕落	18
3.2.1 堕落的经过	18
3.2.2 堕落的原因	21
3.3 未被救助的人们	23
3.3.1 日本明治时期的公立救助制度	23
3.3.2 妇女慈善会	24
3.4 作为拯救者的女性森江静	26
3.4.1 森江静家的空间设置	27
3.4.2 森江静身份再考	28
3.5 回响着琴之音的救助世界	30
3.5.1 古典中的琴之音	31
3.5.2 作为救助之光的琴之音	33
3.6 结语	35
第四章 《暗夜》论	36

4.1 引言	36
4.2 无法融合的两个空间	38
4.2.1 松川宅内	39
4.2.2 松川宅外	41
4.2.3 无法融合的两个空间	42
4.3 直次郎的遭遇	43
4.3.1 被故乡抛弃的孤儿	43
4.3.2 被城市异化的青年	44
4.4 被歧视的人们	47
4.4.1 直次郎的故乡—被歧视部落	48
4.4.2 被歧视部落的欲望和压抑	49
4.4.3 直次郎无法在社会立足的原因	52
4.5 作为拯救者的女性松川兰	53
4.5.1 女菩萨的幻影	53
4.5.2 女菩萨救助的表象	56
4.5.3 从女菩萨向女夜叉的蜕变	58
4.6 结语	59
第五章 结论	61
参考文献	64
致谢	68

第一章 序論

樋口一葉が明治時代の最も有名な女流作家として、日本近代文学史に重要な地位を占めていることは紛れもない事実である。わずか 24 年間の生涯に、創作時間はわずか 4 年、正式に発表された小説は 22 篇、そのほかに 4000 首あまりの和歌と多数の日記が残された。最初の「糊口的文学」の時代から、過渡期の「十露盤の玉の汗」の商いを経て、晩年は龍泉寺町と丸山福山町の生活体験に取材した多くの秀作で文壇に注目され、ひとときわ輝かしい光を放った。

1.1 先行研究

樋口一葉に関する先行研究は非常に多いが、日本での先行研究は年代別に、以下のように纏めることができる。

まず、1960 年代までの樋口一葉研究は主に和田芳恵、塩田良平などの研究者に代表される伝記研究である。『樋口一葉』（和田芳恵、筑摩書房、1954）、『樋口一葉研究』（塩田良平、中央公論社、1956）は一葉伝記研究の古典的著作である。70 年代に入ると、前田愛が一葉の文学風土に着目し、一葉及びその作品と関連する地域を詳しく検討し、樋口一葉の作品を都市空間というトポスにおいて、綿密に論考した（『樋口一葉の世界』、筑摩書房、1989）。そのほか、前田愛と同時代の関良一、木村真佐幸などの学者たちの一葉文学研究も見落とせない。90 年代に入ると、フェミニズムやジェンダーなどの視点から一葉の作品を読み直すのが一葉研究の新しい特徴となった^①。特に関礼子（『姉の力——樋口一葉』、筑摩書房、1993）、菅聡子（『時代と女と樋口一葉』、日本放送出版協会、1999）をはじめ、女性研究者たちの仕事が増えていった。また 1996 年樋口一葉研究会が創立されて以来、『論集樋口一葉』（I-IV）（樋口一葉研究会編、おうふう、1996-2006）には多様な角度から樋口一葉文学を研究する

^① たとえば、日本文学協会、新・フェミニズム批評の会が編纂した『樋口一葉を読みなおす』（学藝書林、1994）には、フェミニズムとジェンダーの視点から樋口一葉の作品を多角的に考察した論文が多く見られる。

優れた論文が 50 篇以上収録され、今日の樋口一葉研究にとって非常に重要な資料と見なされている。

一方、中国における樋口一葉研究は 1980 年代に始まった。これまでの一葉研究は主に小説に限られ、日記や和歌についての研究はめったに見当たらない。研究成果としては、小説の内容、文体、作者の思想などさまざまな面に及んでいる。しかしながら、一葉文学に関心を寄せる研究者はまだ多くない。代表的な研究成果として、林嵐の作品論^①と肖霞の小説創作論^②のほかに、徐琮（『樋口一葉及其作品研究』、知识产权出版社、2012）と林敏（『樋口一葉文学思想研究』、四川人民出版社、2013）の作家・作品研究の著書がある。

1.2 本研究の視点

以上のように、これまでの樋口一葉文学に関する先行研究は実り多い成果を上げてきたことは間違いない。だが、日中を問わず、従来の伝記研究、作品生成論は別にして、作品論においては「たけくらべ」や「にごりえ」などの名作品が集中的に取り上げられる一方で、初期と過渡期の作品や、あまり有名でない作品に関する研究はまだ重視されていないようである。さらに、90 年代以後、フェミニズムやジェンダー論の隆盛に伴って、樋口一葉の作品における女性像の分析、一葉の恋愛観、女性の発見などのテーマを中心にした研究は多くなってきたが、それに対して、男性像や児童像についての研究はまだ少ない。

本研究は、豊富な先行研究を踏まえたうえで、樋口一葉の作品における「孤児」に注目してゆきたい。一葉の小説で、孤児が登場する作品といえば枚挙に遑がないが、滝藤義満は作中の孤児主人公を、①零落した「谷中の美人」（「たま櫛」「経づくえ」等）、②独栖の美女と彼女に親しむ天涯孤独の少年（「琴の音」「わかれ道」等）、③継子的要素を持つ孤児（「暁月夜」「花ごもり」「大つごもり」）の三つに分類した^③。本稿が関心を寄せるのは一葉が明治 26（1893）年 7 月に龍泉寺への転居をきっかけに、従来の恋愛小説から社会小説へ転換す

^① よく引用される論文は「樋口一葉と《大年夜》」（『东北师大学报』、1993-08）、「日本女作家樋口一葉と甲午戦争」（『日本研究』、1999-12）、などである。

^② 肖霞、「论樋口一葉的浪漫主义文学创作」、『山东大学学报（哲学社会科学版）』、2005-02。

^③ 岩見照代、北田幸恵、関礼子等編、『樋口一葉事典』、おうふう、1996。第 191 頁。

Degree papers are in the "[Xiamen University Electronic Theses and Dissertations Database](#)". Full texts are available in the following ways:

1. If your library is a CALIS member libraries, please log on <http://etd.calis.edu.cn/> and submit requests online, or consult the interlibrary loan department in your library.
2. For users of non-CALIS member libraries, please mail to etd@xmu.edu.cn for delivery details.

廈門大學博碩士論文摘要庫